

# 文部科学省委託事業「幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業（人材確保関係事業）」（令和5年度）

## 調査結果概要

（受託者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

### 事業概要

- ・ 幼稚園教諭免許を取得可能な大学、短大（以下、養成校）に通う全国の学生に対する抽出アンケート調査を実施
- ・ あわせて、幼稚園教諭の就職、採用状況等の実態把握のため、幼稚園団体に対する調査、有識者および隣接関連分野へのヒアリング調査を実施

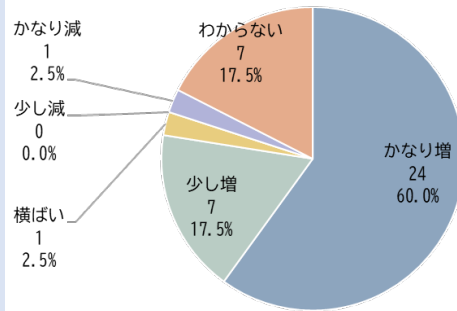
### 学生アンケート調査概要

対象：国内の幼稚園教諭免許状（一種及び二種免許状を対象）を取得することができる大学・学部・学科・専攻等に通学する学生  
 方法：地域性に応じた多段抽出およびクラスター抽出法（養成校単位での抽出）で、養成校経由で学生に調査を配布  
 調査時期：令和4年10月（就職活動の状況については10月1日時点での回答を求めた）  
 回収：一種免許状取得可能大学等（主に短期大学）：1,662（回収）／16,688（配布数） 回収率：10.0%  
 二種免許状取得可能大学等（主に4年制大学）：1,883（回収）／5,870（配布数） 回収率：32.1%  
 調査項目：属性情報／養成校入学～学生生活について／進路意識（振り返り）／進路意識（現在）／就職活動及び就職後について 等

### 幼稚園教諭の不足状況の深刻化

（全国の幼稚園団体に対するアンケート調査※より）

幼稚園教諭に不足感のある幼稚園の数の変化（2010年頃と比べて）



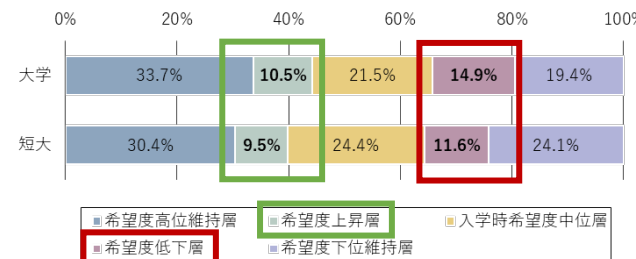
### 主な調査結果（概要）

※全日本私立幼稚園連合会に加盟する47都道府県、政令市・中核市の私立幼稚園団体に対し、令和4年8月8日（月）～8月31日（水）にかけて任意回答のWebアンケート調査を依頼。40件の回答を得た。

### 養成課程における学生の進路希望の実態

（全国の養成校に通う学生に対するアンケート調査より）

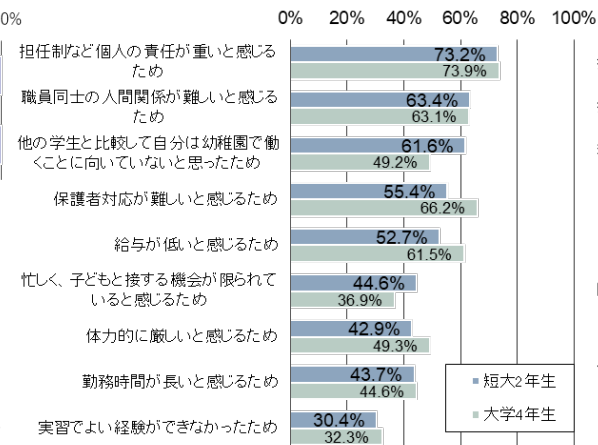
幼稚園就職希望度の推移による類型（入学時→調査時点）



- ・ 入学時に幼稚園志望度が高く、その後維持する学生は約3割
- ・ 学生の1～1.5割は、入学時の高い幼稚園希望がその後低下

幼稚園教諭への就職希望度が下がった理由（上位理由抜粋）

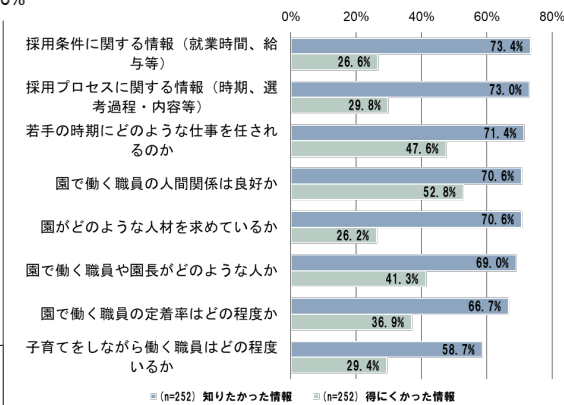
- ・ 担任制などの負担意識、職場や保護者との人間関係に不安
- ・ 幼稚園希望度低下者のうち3割が、実習で苦い経験



※各項目「とても」＋「やや」あてはまるの合計。最終学年で、入学時から幼稚園就職希望（5段階）が下がった者の結果（短大2年n=116 大学4年n=65）

就職活動において知りたかった情報と得にくかった情報（4年制大学：4年生）

- ・ 得にくかった情報として、職場の雰囲気や若手時期の仕事の内容



### 幼稚園における人材確保を進めるために・・・

- 【養成校】 実習前後での丁寧なフォローや進路指導を通じた個別的な支援の充実、園職員との安心・安全で率直な対話の機会の充実 等
- 【各園】 チームとして、継続して働くための体制・土壌づくりとその訴求（担任のカバー体制構築やキャリア形成の見える化、職場の風土づくり） 等
- 【行政】 学生が幼稚園について知る・体験する機会の充実、そうした場における学生のニーズを満たす情報発信のあり方の普及・促進

### 示唆・考察

# 幼稚園教諭養成課程における学生の実態と人材確保のポイント（概要）

## 入学

## 実習

## 就職活動

## 就職

### 学生の生活、意識

- 入学当初の幼稚園希望度は、およそ高位(4~5割)：中位(2~2.5割)：低位(3~3.5割)で分布
- 実習以外の課外活動で乳幼児と接する経験を持つ学生は短大で半数弱、4年制大学で6割弱
- 入学時から、給与面、忙しさ、人間関係、保護者対応など様々な面に不安を抱えている

- 4年制大学の实習時期は、大都市部では2年生、3年生の夏頃、4年生春頃に、非大都市圏では3年生の夏~秋ごろにピークがきている
- 全体では9割の学生が実習を楽しかったと評価。他方でネガティブなギャップを感じた学生も3割超
- 全体では「やりがいを感じた」「仕事内容を理解」5割、「職場の人間関係がよい」「保育方針に共感」3.5割（「とてもあてはまる」の割合）

- 内定時期は短大で8月~10月、4年制大学で7月~9月が全体の7割を占める。都市部において就職活動および内定の早期化傾向
- 就職活動時の重視事項について、園長や職員の雰囲気をととても重視する回答が特に多く全体の8割超
- 在学中に園職員の話聞く機会は3割強の学生のみ経験

- 幼稚園内定学生の半数超は結婚、出産等のライフステージに関わらず継続して働くことを希望
- 2割超の学生は、一時的に仕事を離れたとしても、長期的には幼児教育分野に仕事として携わりたいことを希望

### 幼稚園志望の低下、上昇

- 入学当初の希望度高位層のうち、3割以上の学生がその後希望度低下。一方、入学当初の希望度低位層のうち、約3割の学生がその後希望度上昇
- 4年制大学の1~3年生では、希望度低下者のうち5割弱が実習前に希望度低下。希望度低下理由として「給与の低さ」のほか「担任制」や「職員同士の人間関係」「保護者対応」などへの苦手意識が理由として多い

- 幼稚園希望度が低下した学生のうち、短大では5割が、4年制大学では4割が「実習中」に希望度低下（どちらも最終学年への調査結果）
- 希望度低下理由として特に多いのは個人の責任の重さ。ほかに職場の人間関係、適性、給与の低さなど。希望度低下層で評価が低いのは「実習前後のフォロー」（希望度を高く維持している層と比較して、「とても満足」の回答割合が10pt程低い）
- 希望度上昇層で評価が高いのは、「教員としての仕事のやりがいを感じた」「職場の人間関係が良いと感じた」「保育の方針・保育内容に好感を持った」など（希望度が低く推移している層と比較して、「とてもあてはまる」の回答割合が10~20pt程高い）

- 幼稚園希望度が低下した学生のうち、短大では3割が、4年制大学では4割が「実習後~就職活動」時期に希望度低下（どちらも最終学年への調査結果）
- 短大では、2年生の希望度低下層のうち7割超は保育士を希望
- 4年制大学では、4年生の希望度低下層のうち約2割は子どもに関わらない仕事への希望度が高い
- 希望度上昇層と希望度下位維持層で比較すると、進路支援の体制に「とても満足」とした回答が10pt程高い

- 短大では、幼稚園教員免許は、希望度低下層でもほぼ全員が取得見込み
- 4年制大学での希望度低下層の1割は、幼稚園教育免許の取得見込みなし

### 人材確保のポイント

（行政、園、養成校が連携して取り組むポイント）

- 入学後、具体的に見えてきた負担感への不安に対する丁寧な情報提供やフォロー
- 実習前後で、学生に仕事内容・やりがい・保育方針・キャリア形成支援策が伝わるような体制づくり・情報提供

- 実習中に希望低下した学生のすべてが「実習でよい経験ができなかった」わけではない。実習により知る現場の「現実」を相対化したり理解を深めるための丁寧な実習前後のフォロー
- 実習前後で若手職員と対話する機会など、仕事のやりがいやキャリア形成等に触れる安心・安全な対話の機会の充実

- 希望度低下の理由として、他者と比べた自身の適性を気にする様子が見られる。進路支援において、適性に関する認識を丁寧に聞き取ったうえでのサポートや情報提供
- 園の雰囲気や職務内容、キャリア形成などについて率直に聞くことができる機会の充実、学生の求める情報の提供

- 継続して働きたいという学生の希望を前提とした、園の環境整備やキャリアパスに対する情報提供や幼稚園の強みの広報
- 免許取得者に対する継続的広報（再就職促進）